

KLIS TODAY

No.
19

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日1-2 Tel.029-859-1110 Fax.029-859-1162
URL: <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail: klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

春日エリアのキャリア相談室より

神村 孝子

みなさん、こんにちは。キャリア相談室 キャリアアドバイザー神村孝子と申します。

昨年4月より毎週金曜日、学生支援室の先にある7B216にて相談業務を行っています。相談内容は就活に限らず、「将来を意識した学生生活についてどう過ごしたいか」なども相談できます。これまで学類生の方から大学院生まで学年問わず、利用いただいています。

個別相談のほかには『進路情報カフェ』など、学生さんが少人数で気軽に情報交換ができる場も作ってきました。進路に不安はつきものですが、同じ状況の人と話すことで、ほっとできる場にもなっているようです。

私自身、天王台エリアの就職課の就活アドバイザーも兼務していますので、就職課主催のイベントなどの情報提供もしています。イベントや個別相談を通じて他学類の人やさまざまな社会人と接することは進路への意識を高めるきっかけになりますので、たくさん活用していただきたいです。

春日の学生さんの印象ですが、よい点は「課題に対して努力する、やりぬく力がある」ことでしょうか。学生生活は「自分を試せる場」がたくさんあります。授業や研究、課外活動、アルバイト、初めての一人暮らしなど、身近なことに主体的に関わっていくことで、社会人としての基盤を築くことができます。「まだ気づいていない自分らしさや強み」を一緒にひも解いたり、自分の進路を検討する場として気軽に利用してください。どうぞよろしくお願いいたします。

(かみむら・たかこ 筑波大学春日エリア キャリア相談室・キャリアアドバイザー)



キャリア相談員
として着任しました
神村孝子です！

(イラスト：時井真紀講師)



筑波大学の就職課および 知識情報・図書館学類の就職支援体制

大庭 一郎

知識情報・図書館学類の教育は、理学・工学（自然科学）的アプローチと人文・社会科学的アプローチの両者の価値を認め、二つのアプローチを理解できるような文理融合のカリキュラムを特徴としています。本学類の卒業生は、この文理融合の教育を踏まえて、民間企業や公的機関に就職したり、大学院への進学を選択しています。このような多様な進路希望に対して、知識情報・図書館学類では、筑波大学の就職課および本学類が独自に提供する就職支援体制の双方を活用することによって、学生が多様な進路を選び取れるようにしています。

筑波大学は、開学当初の1973（昭和48）年に、全国の国立大学に先駆けて就職課を設置しました。就職課では、在学生がインターネット経由でアクセスできる「就職情報提供システム」を通じて、企業情報・求人情報だけでなく、OB・OG名簿や内定者報告などを閲覧できるようにしています。さらに、例年12月から1月にかけて学内で開催するOB・OG懇談会（学内企業説明会）は、参加企業約400社に勤務する本学OB・OGが来校して、企業の概要を説明し質問に応ずるもので、多くの在校生がこの懇談会を活用し、企業への就職に威力を発揮しています。

他方、知識情報・図書館学類では、就職課が実施するキャリア・就職相談とは別に、毎週金曜日にキャリアカウンセラーによる個別面談を行なっています（本号p.1参照）。毎年10月には、学類独自の3年次向け進路説明会を開催し、就職活動に備えています。

さらにそれらに加えて、2004（平成16）年2月から、公務員採用試験受験者のために、学類独自の「公務員試験準備講座（教養模擬試験）」を開始しました。現在では、2年次の9月から4年次の6月にかけて、隔週で合計44回の教養模擬試験を実施しています。というのも一定数の本学類生は、前身の教育組織の卒業生と同様に、図書館への就職を希望していますが、国や地方自治体が設置している図書館が多く、この場合、学生は、公務員採用試験（教養試験）に合格しなければならないからです。さらに、公務員採用試験の受験段階に応じて、志望理由書の執筆、機関訪問の準備、2次試験の面接に向けた助言等を行なっています。なお、「公務員試験準備講座（教養模擬試験）」は、人文科学、社会科学、自然科学の幅広い一般知識の習得をサポートするものとして、公務員・図書館系志望の学類生だけでなく、大学院進学や民間企業志望の学類生も活用しています。

これらの支援体制によって、ひとりでも多くの4年生が自分に適した進路をみつけ、それを手中に収められるよう、私たち就職担当教員はもとより学類の教職員一同、努力しています。

（おおば・いちろう 知識情報・図書館学類 講師）



公務員試験準備講座の風景

テクニカルコミュニケーター専門課程が 認定されました

三波 千穂美

知識情報・図書館学類の科目群による、テクニカルコミュニケーター専門課程が認定されました。

現代社会において私たちは、日常的に電子機器その他の家電製品や各種情報サービスを利用します。それらに関して利用者が求める情報を、正確かつわかりやすく表現するとともに、効果的に伝達し提供することをテクニカルコミュニケーションといいます。そして、仕事としてテクニカルコミュニケーションに携わる人々を、テクニカルコミュニケーターと呼びます。テクニカルコミュニケーターが備えるべき能力は単なる情報処理能力ではありません。ライティングや検索、企画力、法的知識など、幅広いと同時に、現代のような情報社会においては、非常に有用である能力です。そういう意味で文理融合型の人材を育てようとしている知識情報・図書館学類は、テクニカルコミュニケーター養成に適したカリキュラムをそもそも有しているといえるでしょう。

今年度より、一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会（JTCA：テクニカルコミュニケーションの専門家からなる、日本を代表するテクニカルコミュニケーション関連団体）が、テクニカルコミュニケーター専門課程の認定を開始しました。これは、開講科目をもって専門課程が充足できることを大学が申請し認可された場合、学生は開講科目を履修することにより、テクニカルコミュニケーター専門課程修了認定証が得られるというものです。

そして、この協会の認定第1号は、知識情報・図書館学類の平成24年度の開講科目による課程が取得しました。知識情報・図書館学類生のみなさんは、本学類の既存の科目のなかから認定された科目の単位を取得することにより、テクニカルコミュニケーター専門課程修了認定証が得られます。自らの能力の証として、ぜひ、修了認定をめざしてください。

（さんなみ・ちほみ 知識情報・図書館学類 講師／JTCA評議員）

●テクニカルコミュニケーター専門課程の分野と本学類開講科目の対応

知識と能力の分野	必要単位	開講科目	単位数	知識と能力の分野	必要単位	開講科目	単位数
TC基礎	2	テクニカルコミュニケーション	2	デザイン・表現設計	2	知識情報演習II	2
情報収集と分析	2	量的調査法	2			情報デザインとインタフェース	2
		質的調査法	2	ライティング	2	情報基礎実習	1
企画・設計	2	知識発見基礎論	2			情報リテラシ実習	1
情報アーキテクチャー	2	情報基礎	2	英文ライティング	2	専門英語III	1
		情報システム概説	2			専門英語IV	1
		デジタルドキュメント	2	周辺分野	2	知的財産概論	2
制作管理・ディレクション	2	知識科学実習	2			国際インターンシップ	2
		知識情報システム実習	2				
		情報経営・図書館実習	2				

卒業研究最終発表会を終えて

知識情報・図書館学類では卒業研究が全学生に課せられています。3年次の後半に研究室の決定・配属があり、その後、4年次になって6月上旬に着手発表会、10月上旬に中間発表会、さらに1月上旬の最終発表会を経て、卒業研究の単位が認定されます。

情報経営・図書館主専攻と知識情報システム主専攻は、着手発表会、中間発表会、最終発表会、すべて口頭発表を行います。知識科学主専攻は、着手発表会と最終発表会は他の主専攻と同様、口頭発表ですが、中間発表会では希望する学生はポスター発表を行うことができます。

今年の3月に晴れて卒業となる2012年度卒業予定者の、中間発表会、最終発表会の様子をご紹介します。

情報経営・図書館主専攻の中間発表会より（2012年10月10日）



スライド全体を振り返って説明しよう



見つめている指導教員

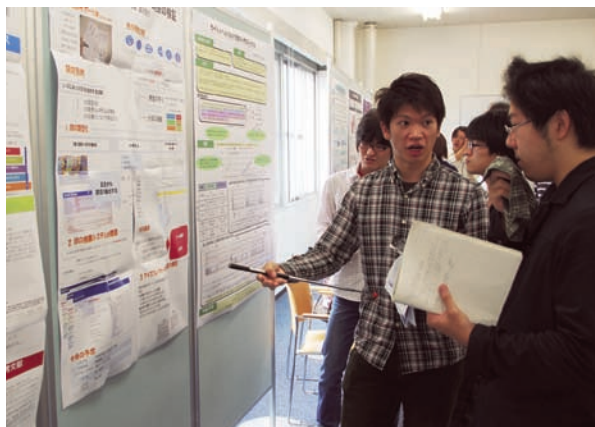


手ぶりを交えて

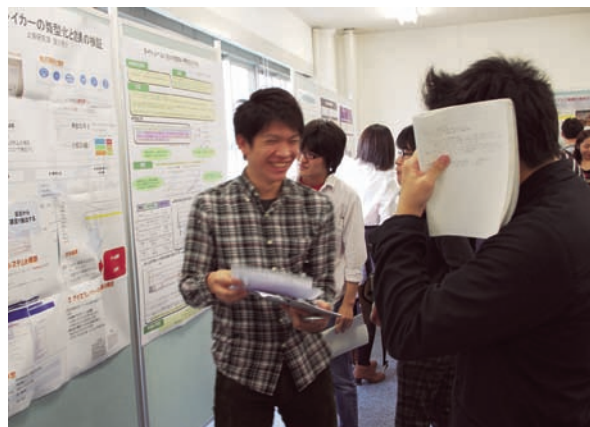


司会者の心もとらえない

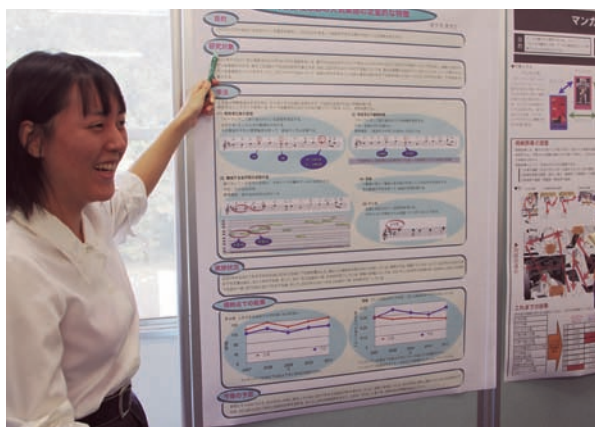
知識科学主専攻の中間発表会よりポスター・セッション（2012年10月10日）



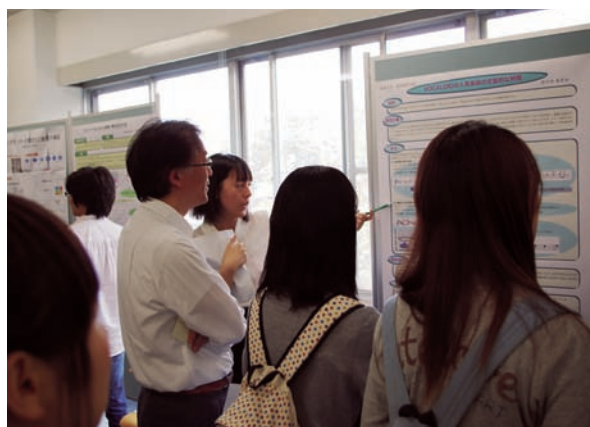
研究のポイントを力強く指し示す



理解してもらえて、会心の笑み



自信の笑み

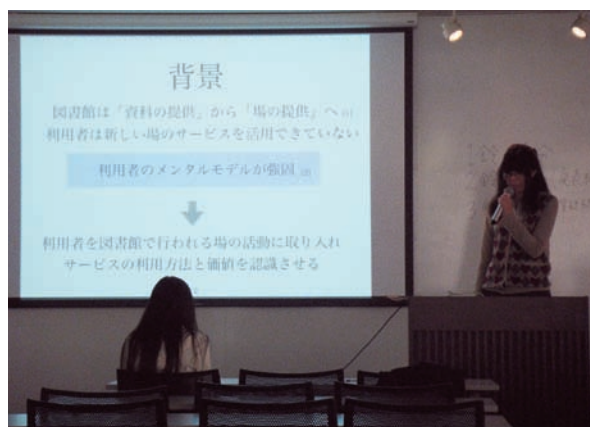


先生を前に、表情も真剣に

知識情報システム主専攻の最終発表会より（2013年1月9日）



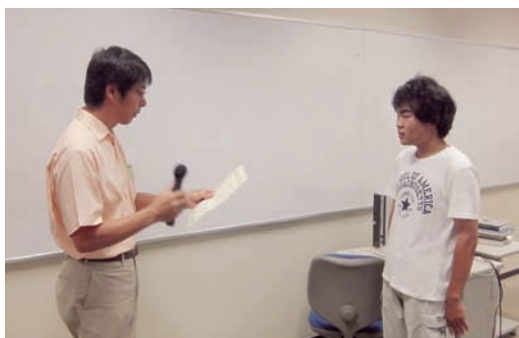
ソーシャル付箋、つくってみました！ どうだ！



『出会い系図書館』（本誌No.12参照）をわかってもらおう

知識情報演習Ⅰ優秀作品賞授賞式

本誌では知識情報演習Ⅰの授賞式を、毎年記事にしています。プログラミングの基礎知識を学びながらOPAC¹⁾を作るこの科目は、文理融合の本学類の教育を特徴づける科目であるからです。本年度も例年同様、9月上旬に学類長から受賞者に賞状と記念品が手渡されました。授賞式の様子を伝えるとともに、受賞者の受賞の弁を紹介します。



長谷川学類長と岩井さん



学類長から記念品を受け取る古澤さん

受賞者の言葉

●岩井 直也さん（機能を重視したOPACと今後の課題）

私のOPAC制作では、提示されたすべての課題をひとつひとついねいにやりきることに専念し、高い評価を受けることができました。たとえば、検索で使われる特殊記号（%など）がタイトルなどに含まれている場合、あるいは表示したいデータがデータベースに含まれていない場合などで、細かな不具合が起きないように、機能面での対策をしておきました。その結果として、今回の賞をいただくことができたのだと思います。

しかし、私のOPACには課題もあります。たとえば、決定的に使いやすさが足りていません。作る時には機能をきっちり働かせるというところに全力を費やしていたため、結果が見づらいのです。すでにOPACの基盤はできているため、それを見やすく・使いやすく表示するという技術を今後は身につけていきたいと思っています。

（いわい・なおや 知識情報・図書館学類2年次）

●古澤 智裕さん（ユーザー・インターフェースを重視したOPACのデザイン）

今回最も重視したのはユーザー・インターフェースです。昨今OPACはますます一般の人（それはまったくパソコンに詳しくない人かもしれない）が利用する状況になりつつあります。もしそのような人が使うとしたらどのようなものがよいかということを念頭に置き、課題に取り組みました。具体的にはCSS²⁾により、ページ構成をすっきりまとめるといったことなどをしました。ちなみに、私はプログラミングがそこまで得意な方ではありません（プログラミングの授業の評価はB）。工作は割と好きなので、今回のプログラミングを「少しルールの細かい工作」と捉えることによって楽しく取り組むことができました。

（ふるさわ・ともひろ 知識情報・図書館学類2年次）

1) OPAC: Online Public Access Catalog, 図書館のオンライン蔵書目録

2) CSS: Cascading Style Sheets, Webページのレイアウトを定義する規格

知識情報・図書館学類クラス連絡会 代表者会議（クラ代）の活動、点描

筑波大学にはクラス連絡会代表者会議（以下、クラ代）という組織があります（本誌No.16参照）。クラ代は、学類の生活改善を目標にさまざまな活動をしています。知識情報・図書館学類のクラ代は情報メディア創成学類のクラ代と連携して春日クラ代を構成し、春日エリア全体の問題と知識情報・図書館学類固有の問題、双方に取り組んでいます。前ページの受賞の二人も含め、本誌では過去にもクラ代メンバーは多く登場してくれています。



春日クラ代 夏の合宿風景（2012年8月27日）



KJ法（発想法）を学ぶ



春日クラ代生活局のミーティング（2012年9月19日）



春日クラス連絡会（2012年9月25日）



春日クラス連絡会後の学生・教員懇親会



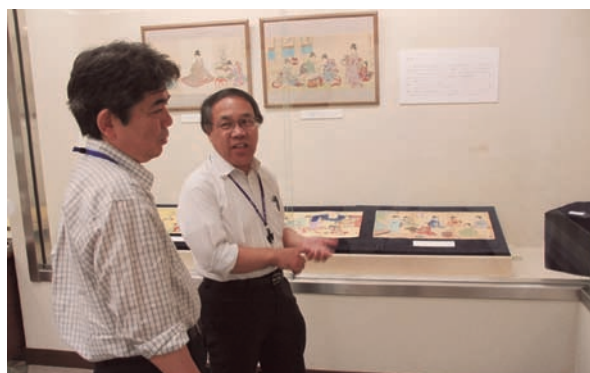
知識クラス連絡会（2012年12月18日）

附属図書館特別展、開催される

筑波大学と図書館情報大学の統合10周年を記念して、平成24年度筑波大学附属図書館特別展「明治時代に礼法はいかにして伝えられたかー出版メディアを中心にー」が、平成24年10月1日から10月31日まで開かれました。その間、学園祭（雙峰祭）期間中の10月8日には附属図書館2階集会室で本学類の綿拔豊昭教授による講演「礼法はいかにして伝えられたか」が催され、多くの聴衆の参加を得ました。この特別展の様子です。



打ち合わせする綿拔教授と附属図書館篠塚さん



会場を回る綿拔教授と篠塚さん



日本文化の一端にふれる留学生たち



「女子教育出世双六」のパネルの前で



講演する綿拔教授



講演後、聴衆に展示を案内する綿拔教授